

こどもまんなか実行計画 2025 の策定について

医療法人社団千実会あきやま子どもクリニック
院長 秋山千枝子

1. (1) こどもの誕生前から幼児期まで

出産に関する支援等の更なる強化、産前産後の支援の充実と体制強化

産後ケア事業において、病院を利用する場合、いったん地域に帰って利用する場合、また4か月以降に利用する場合など、産後ケア事業にはそれぞれの役割があるように感じています。今後特徴や役割を検討するとともに、施設整備・人員配置にも違いがあるため、夜勤の職員配置など同じ条件でよいのかなど精査をお願いしたいと思います。

2. (3) こどもや若者への切れ目のない保健・医療の提供

プレコンセプションケアの推進

「資料1-5 成育過程にある者等の状況について」での報告によると、高2女子がR1年から痩身傾向が増加しています。

令和6年度 東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査結果について、高2女子の朝食を食べないが平成26年は4.2%だったの対し、コロナ後から増加し令和6年は9.1%となっており、睡眠時間6時間未満が3.5%から10.2%になり、生活習慣が悪化しています。学校教育とプレコンセプションケアとして対策が必要ではないかと考えます。

3. (3) こどもや若者への切れ目のない保健・医療の提供

母子保健情報のデジタル化

新生児聴覚検査は重要な事業として推進されているところですが、検査結果をとりこぼすことなく確認し、早期療育につなげる必要があります。そこで、母子手帳に予防接種の確認欄があるように、1か月あるいは2か月健診のページに聴覚検査結果の確認欄を設けてはどうかという声があります。